

これからの保育士に期待すること

「失われたものを数えるな 残されたものを最大限生かせ」

これは、障害者スポーツの世界では有名な言葉です。

私が、保育の世界に飛び込んだのは前園長である母の急死がはじまりでした。
私を福祉の仕事と出会わせてくれたのは、自動車事故で片足を失った当時18歳の鈴木徹さんでした。
私自身もバイク事故で寝たきりの2ヶ月間でしたので、毎日同じ病室でお互いの夢を語り合いました。
鈴木さんの言葉の中でとても印象に残っているのは、

「右足を失って悲しいのは自分だけじゃない」

「俺、退院したらパラリンピック出るよ」

という言葉です。

一つ目の言葉は、自分を愛し育ててくれた親の愛情を深く実感する言葉でした。

二つ目の言葉は、本気になった人は強いということを実感させてくれました。

(この出会いの2年後、彼はシドニーパラリンピックに初出場。

その後3度のパラリンピックに出場し、北京大会では選手団の旗手を務めました。)

人は生きていく中でたくさんの大切なものを失います。

しかし、失ったものが自分に残してくれたものはなんだったのかと意味付けるのは自分自身です。

東京都北区立王子本町保育園という公立保育園の運営に山梨から手を挙げたこと。

心を込めて保育をするということがどんなことなのか。

(隣接する周辺環境は公立保育園の魅力でもあります)

保育士になってなにをしたかったのか。

それぞれの原点を語り合いながら、本物の保育士を目指していきましょう。

私達が、まっすぐな気持ちで「志」を持って生きることができれば、

たくさんの出会いが「人」として私達を成長させ支え続けてくれているはずです。

社会福祉法人ゆうゆう 理事長 矢巻行祥

プロフィール

矢巻行祥(やまきゆきよし)

1982年生まれ。日本福祉大学卒。前甲府市保育所連合会会長。大学卒業後、デイスサービス会社に入社。デイスサービスの相談員として、様々な老後の人生と接する。その後、保育園を運営する母親が急死、保育園を引き継ぎ理事長及び園長に就任。現在、山梨県甲府市(60名定員)と笛吹市(80名定員)の保育園を運営。2014年4月より、東京都北区に「王子本町保育園(99名定員)」を開園。現在は3つの保育園と2つの子育て支援センター、1つの放課後児童クラブを運営している。

sumiyoshi-yuuyuu0213@kofu.hoikuen.mia.ne.jp